

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200222		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	ひこねの憩		
所在地	滋賀県彦根市地蔵町字犬角203-7		
自己評価作成日	令和2年8月14日	評価結果市町村受理日	令和2年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県会議福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和2年9月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在の身体機能が維持できるように、会社が取り組み始めた機能訓練に力を入れている。7名の入居者様を対象に週1回程度の訓練を実施している。

日常の家事、掃除、洗濯、調理などを大切に考え、生活機能が低下しない支援を心掛けている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東海地方を中心に全国43ヶ所でグループホームやニーズに応じたさまざまな種類の介護施設を運営されている。そのためきっちりした組織運営が行なわれており、法人間の連携体制や研修の実施、課題の共有及び検討がなされている。機能訓練にも力を入れており、法人から理学療法士が定期的に訪問しアセスメントして、生活機能向上に取り組んでいる。看取りも積極的に受け入れており、提携医と連携し施設内で家族に見守られながら、その人らしい最期を迎えるための支援が行われている。コロナ禍においてもリモートでの面会ができる環境が整っている。

施設は閑静な住宅街の一角に位置している。今年はコロナ禍で出来ないことも多いが、普段は散歩をしたり、地域の店に買い物に行ったりし、地域住民から声をかけてもらったりと交流もある。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全社で共通の、介護の心得、接遇5原則を定めている。常に入居者本位であるように心がけ、共有できるよう唱和している。	接遇5原則(挨拶・態度・表情・身だしなみ・言葉使い)を常に頭に入れて上で介護を行っている。相手の目を見てしっかり伝わるよう、自然な会話になるよう、親しみやすい声かけを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の一斉清掃や防災訓練に参加している。	散歩に出ると、地域の方々は入居者と認識されており、気軽に声をかけてくれる。今年は一斉清掃や防災訓練等用意していたがコロナ禍で全て中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、一般的な認知症の進行の経過や、個別のケア方法などを差支えない範囲でお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、評価終了後の会議では、評価について話題にしている。	自治会・老人会・地域包括・近隣の会社職員・家族等の参加のもと、ヒヤリハットや行事等の報告や議論も行なわれている。昨年は防災で水害マニュアル作成に取り組んでいたが、2月以降コロナのため資料送付で対応されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の際に、本人の状態と共にケアサービスの取り組みを伝えることで、良好な関係作りに努めている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加しており、そこでホームの実態、取り組み等を伝えている。また行政の情報収集にも努め、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基本については理解している。現在は、ウイルスの侵入を防ぐ意味から、玄関は施錠している。その他の拘束については行っていない。	3ヶ月毎の勉強会では、拘束の事例で意見交換をしたり、職場のガードラインの見直し等で職員の共有認識を図っている。利用者の危険を察知したら、行動を止めるのではなく利用者がなぜその行動をとったのか理由を探り、原因から取り除くように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、定期的に勉強会を実施している。虐待に繋がると思われるような言動がなかったか話し合いをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの制度の利用者は現在おられないが、社内で行われる研修で知識を得られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、わかりやすい言葉で話すように心がけている。改定の場合は、その都度、家族会を開催し、本社から担当者が来て説明することで疑問点や不安なことへの対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、家族が要望を施設側に話して下さるようにしている。会議録をまとめ、家族からの要望が全職員に伝わるようにして、共有できるようにしている。	運営推進会議に参加された家族から直接要望を聞いたり、プラン作成時に電話にて確認している。要望は議事録の回覧で、個別のケアに対しては口頭でも職員に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設では毎月のスタッフ会議、会社としては毎月管理者会議が開催されている。現場からの声は会社に届けるようにし、施設では皆が意見を言い合い、より良い施設づくりに努めている。	日頃から意見が言いやすい雰囲気がある。食材に関しての意見も、現場の声として会社に届けている。コロナに対しては職員からの意見でかなり早くからマスク装着や来訪者の消毒に取り組んだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や実績を把握することや、やりがいを持てるような取組を行っている。全社で「ほめて」のアプリを導入し、実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社では、職員のレベルに合わせた様々な研修が行われている。自分の希望や段階に合わせて受けることができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社の支援を受けて、地域の「彦愛犬介護保険事業者協議会」に加入している。他のグループホームとの交流や、講師を招いての研修にも参加することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、また生活に慣れないうちは、不安なことがあっても伝えられない場合もあるので、職員側から常に本人の様子を注視し、何か困っていることがないか、寂しさや不安がないか、など見極められるようにし、本人が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には、本人が施設に馴染むことが出来るか、他の入居者や職員と関係を作っていく事が出来るのか、など様々な不安がある。どの家族も皆、同じ思いで入居を決めてきたことを伝え、大丈夫です、と何度も話し、安心してもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の際に、状況を聞いた上でグループホーム入居が適切でないケースにおいては、介護保険制度の概要説明や、今の本人の状況に応じたサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理や掃除をすることで、ご自身の力を発揮してもらい、やる気や自信を取り戻してもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に入居当初では、本人のケアについて、家族から自宅での状況を教えて頂くことが重要であり、本人について様々な情報を得るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人、友人について、また来てくださるようお願いしている。	面会に来られたことを入居者がどんな風に喜んでいたかを具体的に伝え、また会いに来てもらえるよう支援している。現在はコロナ禍のため、ドア越しの面会だが、リモート面会もできるよう整備されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士を近くの席にしたり、仲の良い利用者同士は、お互いの部屋で談笑され、関わりあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、つながりが途絶えることもあるが、相談を受けることや、必要なら支援を行う姿勢を持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	早く起きて朝食までゆっくり過ごす方、あるいは食事時間までのんびり寝ていたい方など、それぞれの希望に応じたケアに努めている。	日々の関わりの中でペースをつかみ、生活の中でその人に合わせた支援を行っている。入浴も強要せず、今日が無理なら明日にまわしたり、食事もその人の習慣に合わせて食べられるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、これまでの暮らしについての聞き取りを関係者から行っている。そうすることでスムーズにホームでの暮らしに移行できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居したばかりの方については、一日を通して出来る限り寄り添い、一緒に行動することで、心身の状態や、残存能力を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの立場からケアについての意見を出し合い、よりよいプランづくりに努めている。	ケアマネジャーは、本人の意向を基に家族や現場職員、看護師、PTの意見を聞いて計画を作成している。PTからは歩行状態や身体の動きから、生活リハビリのアイデアをもらいプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どのような時にどんな様子、表情だったか、など記録するようにし、共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会が出来ない時期なので、オンライン面会を勧めるとともに、アプリを活用して、家族様へ本人の様子を伝える文章と共に、写真を送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族だけでなく、本人の暮らしを支えて下さるような知人の方であるなら、今の状態を伝え理解して頂けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が信頼している医療機関での診療を継続できるように支援している。	提携医は月2回の任診あり、現在8名が利用。普段の受診も緊急時も、施設が対応している。かかりつけ医受診の1名は、普段の受診も緊急時も家族が対応される。この場合、受診時は家族に普段の様子をメモ或いは口頭で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問時には、細かく状態を伝えて相談し、助言を受け、本人、家族が健康についての不安がないようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には出来るだけ早期に、情報提供をしている。入院が長くなる場合には電話での問い合わせや、面会に行くことで、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点での終末期についての希望を聞き、文書化している。重度化した場合の対応指針を作成し、同意を得ている。	家族の意向も踏まえ、安心して最後が迎えられるよう取り組んでいる。提携医との医療連携体制も整っている。家族が望めば泊まることも可能。職員の不安に対し、急変時には管理者が必ず駆けつける体制もあり、職員は安心して看取りに向き合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフはこうした研修を受けている。研修後も毎月の会議の場などで引き続き確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害が多いことから、対策の指針を作成している。	防災訓練は年2回、消防署の実施評価や助言を受けていたが、今年はコロナ禍でもあり行っていない。指定の避難場所へは遠いが、地域からの協力で向いの建物を避難場所として使えることになっている。	消防署と相談して、コロナ禍でも出来る訓練、通報訓練等や避難した場合の感染予防対策も検討してはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の特徴を理解してどのような対応がその方に適しているか考えて日々接している。	入居者にはそれぞれ個性が有り、職員に対する態度が違う方もある。そのような時でも、入居者一人ひとりの個性を大切にし、違う職員が対応する等の工夫を講じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように、選択肢を用意したり、決めることに時間がかかる場合でもじっくりと待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やおやつの時間に出て来られずに、部屋でテレビを見ていたい、ような状況であれば無理強いするのではなく、本人の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節があいまいで、適切でない着衣の場合、さりげなく声をかけて着替えてもらい、その時期にふさわしい服装にするとともに、髪を整えたり、そろそろ毛染めの時期ですね、などと話したりして自分なりのおしゃれに気付いていただくきっかけを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁を使えなくても、盛り付けだけの方や、食後のお膳拭きなど、一人一人に応じた分担をして一緒に食事づくりをしている。	準備や後片付け等を行ってもらっている。メニューや食材は本社から送られてくるが、同じ食材で違うメニューにアレンジしたり、工夫をしている。好みでないメニューは、別のものを提供することは行っていないが、量で調整する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の適切な水分量、食事量を把握して提供している。便秘が続くなら排便を促すようなお茶や牛乳の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしている。義歯の方には外して磨くことを、歯の無い方には舌を磨くことを促すなど、それぞれに応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめなトイレへの促しを行い、失禁状態にならないように気を配っている。	可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。具体的には排泄ペースを記録し、声掛けのタイミングを把握。又、オムツの使用量を減らすことに繋がると考え、過剰な薬剤投与(利尿剤・緩下剤)に対し、医師や看護師に提案する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘の方には、牛乳を提供したり、排便を促すお茶を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いちばんに入りたい方、あるいは昼食後に少しのんびり過ごしてから入りたい方など、希望に沿って入ってもらっている。	入浴は週2回、昼間に実施している。昼間ではゆっくり浸かる・時間をずらす等の対応は行っている。入居者全員に入浴してもらう為、毎日入浴は行っている。当日拒否が有っても、別の日に入浴してもらうことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆が部屋に戻られても、一人の部屋で過ごすのが不安な方については、眠気が出てくるギリギリまでホールでスタッフと一緒に過ごす事で安心してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に拒否があれば時間を空けたり、医師の許可のもとで、朝食後の薬を昼食後にずらしたりして、スムーズに服薬出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しが得意な方、調理が好きな方、音楽を聴くのが好きな方、様々な要望に応じて、役割を持ったり、楽しくすごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや日常の買い物などに出かけるようにしている。(買い物は2月末まで実施、以降は中止、ドライブは6月まで実施、以降は中止)	コロナの影響で近々には行えていない。コロナ以前は定期的にドライブや買い物の外出支援を実施し、外の環境に触れてもらっていた。コロナ禍の今は、屋内での手芸等の手作業や、レクリエーション、頭の体操(パズル等)を実施。	アセスメント時やプランの見直し時に、地域密着型サービスの役割やご家族・地域住民との交流について説明ができ、理解が得られると良いですね。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方はおられないが、自分で買い物をされる際に、金額が本人にとって適切であるかどうかを考えることを促すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり、電話をされる方は現在おられないが、要望があれば支援する姿勢である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏季は快適に過ごせるようにすだれを使っている。ひな人形や五月人形を飾ったりして季節を感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテレビ前にソファを置いている。食後やおやつ時など気の合う入居者同士が自然に集まり、お喋りやテレビ鑑賞を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの方が使い慣れたものや好みのものを持ち込んでおられる。身体的レベルに合わせたベッドの高さや家具の配置を考えている。	ある入居者の居室にはパッチワークがタペストリー風に飾ってあり、部屋中に沢山写真が貼ってあった。共用スペースでは必要に応じて、家具等の配置を変え、手作りカレンダー、季節イベントに合わせた飾りつけも行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどわかるように表示している。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 13	災害対策について 水害時の避難方法や地域との協力体制が不十分である。	水害マニュアルを完成させ、マニュアルに沿った訓練の実施	水害マニュアルの作成 火災だけでなく、水害を想定した訓練を行う。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印 )	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input checked="" type="checkbox"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input checked="" type="checkbox"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input checked="" type="checkbox"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input checked="" type="checkbox"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input checked="" type="checkbox"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="checkbox"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/>	⑤その他( )